

自治体名	秋田県男鹿市
日時	2013年9月30日(月) 18:30～20:30
場所	男鹿市総合体育館 会議室
出席者	男鹿市教育委員会、体育協会、総合型地域スポーツクラブ(以下 総合型クラブ)、中学校教諭、スポーツ推進委員、スポーツ少年団等9名
テーマ	市の柱となるスポーツ
議事要旨	<p>前回の意見交換会では、「男鹿市のスポーツ環境」について共有を図り、少子化による子ども達のスポーツ環境、多世代を巻き込む総合型クラブ、指導者及びスポーツ推進委員の活用、スポーツ合宿誘致、施設の有効活用、スポーツ非実施層へのアプローチ等について、今後は各団体の横断的連携により醸成を図る必要があるとの確認を得た。</p> <p>今回の意見交換会は、今後のスポーツ振興のあり方を探るべく、市民のライフステージに応じた様々な事業に取り組む現行政策と、40年前に「ホッケーのまち」「ラグビーのまち」と言われた時代のように「○○のまち」として種目に特化したスポーツ振興策のどちらが市のスポーツ振興に効果的か、前回の共有事項を踏まえながら意見交換を行った。</p> <p>出席者からの主な意見は以下のとおり。</p> <p>○ライフステージごとのスポーツ環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達には、できるだけ多くの種目に触れる機会が必要である。現状では少子化の影響でスポーツ少年団、中学校部活動ともに団体スポーツがしにくい状況にあり、実施種目が制限されているため、複数の種目に横断的に参加できる環境整備が必要ではないか。</li> <li>・スポーツ少年団が連携を積極的に行い、子ども達が複数の活動に参加できる仕組みを検討するべきである。</li> <li>・中間層は、仕事や家事に追われそれほど活動は活発ではないものの、ラグビーやサッカー、婦人層ではソフトボールやバレーボール等が行われているが、参加者は限られている。スポーツを「みる」、スポーツを「ささえる」という参加スタイルを整備し、非実施層のスポーツ参加を積極的に促す必要がある。</li> <li>・高齢者では、グラウンド・ゴルフや500歳野球(参加者の年齢合計が500歳であることが参加条件)が盛んに行われている。</li> </ul> <p>○指導者、スポーツ推進委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージごとに適した指導を行う指導者や、効果的に事業推進を図るスポーツ推進委員を育成し、多くの市民に運動やスポーツを提供することで、市民のスポーツ実施率向上は期待できる。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は、既存事業、既存施設を効果的に活用し、一人でも多くの市民がそれぞれのライフステージに応じて運動やスポーツに参加できる機会を提供することを優先すべきである。行政は、具体的な「スポーツ振興の指針」を提言し、関係機関・団体が共に連携し統一のスキームで活動できるよう促す必要がある。</li> </ul>
まとめ	<p>全2回の意見交換会を通して、男鹿市におけるスポーツの現状を把握することができた。今後のスポーツ振興にあり方について、現状においては市民一人一人のライフステージごとのスポーツ振興が必要であり、種目特化は将来的な施策の一つとして今後も継続して検討することを確認した。</p>